

投 光 器

国労東海貨物協議会
2020年2月28日
発行責任者 鈴木和巳

20春闘勝利・ベア獲得貨物東海支社前行動を開催！

2月26日（水）12時10分より、国労東海本部主催「20春闘勝利・ベア獲得貨物東海支社前行動」が開催され、貨物組合員及び名古屋、静岡、新幹線各地方本部の旅客組合員を含め総勢約40名が結集しました。

東海支社前集会は東海貨物協議会小川副議長の司会ではじまり、主催者である東海本部上野委員長から「20春闘の闘い、国内政治情勢」について、全国貨物協議会星野議長から「貨物会社を巡る情勢、労働条件改善、各職場の労働実態」について挨拶を受け、各地方本部を代表して名古屋地方本部土屋執行委員長、静岡地方本部植田書記長、新幹線地方本部山崎執行委員長から連帯の挨拶を受けました。東海貨物協議会鈴木議長からは、「春闘申し入れの状況、国内の春闘



情勢、貨物会社の実態と社員の現状、人事賃金制度、各職場における要員不足及び技術継承問題」等について報告と挨拶がされ、ベア満額獲得を目指し、貨物社員が安全・安心して働き続けられる環境と労働条件の改善に向け闘う決意が表明されました。続いて、青年部工藤君の発声でシュプレヒコールを行い、JR貨物東海支社に対し労働者の怒りを訴え、最後に東海本部上野委員長の力強い「団結ガンバロー」で貨物東海支社前行動を終了しました。



午後からは国鉄会館へ場所を移し、貨物組合員15名が結集する中、「2020春闘学習会」が開催され、鈴木議長からは「貨物会社を巡る情勢、20春闘の闘い、ダイヤ改正関係、組織強化・拡大」等について挨拶を受けました。

20春闘学習会は、全国貨物協議会星野議長を講師に『貨物会社を巡る情勢と2020年春闘の闘い』と題し、「JR体制の発足から32年、その光と影」「膨大な会社間格差をもたらした地域分割の破綻」「公共輸送を利益優先、市場任せにした民営化の矛盾」をはじめとし、貨物会社を巡る情勢として「中期経営計画2023の策定」「発足以降、最大限の設備投資を計画」「2019年度事業計画における経常利益97億円」「新しい人事制度の導入」「北海道新幹線札幌延伸に伴う新幹線と貨物列車の共用走行」「2020年春ダイヤ改正」等、貨物会社が抱える諸問題として「自然災害時における鉄道軌道整備法の拡充、激甚災害、非常災害に基づく国の全面的な支援」「線路使用料におけるアボイダブルコストルールの清算単価見直し、法的担保の重要性」「整備新幹線に伴う貨物調整金による第三セクター会社の経営支援」「青函トンネルの共用走行による安全対策問題」「莫大な設備投資による大きな経営負担」等、更には新しい人事制度の到達点と課題を学習し、当面する取組みとして「2020春闘勝利に向けた闘い、国交省・鉄道運輸機構等への要請行動の強化、会社の経営課題に負けない組織と学習活動の強化、安全・安心の職場確保に向けた労組法・労安法を活用した取組み強化、労使協調組合の矛盾を明らかにする運動強化、組織拡大への取組み強化」等について提起と報告がされました。学習会における質疑応答では、人事賃金制度に関する質問を中心に20春闘の闘い、労働条件改善など組合員から様々な問題点と質問が出され、全貨協星野議長による答弁を受け学習会は終了しました。



(全貨協星野議長)

学習会終了後の懇親会では、職場の問題や運動に対する議論が白熱し、親交と団結を深める中で労働条件改善と更なる組織拡大、貨物労働者の生活を守るため客・貨一体となりベア満額獲得に向け奮闘することを誓い合い、「20春闘勝利・東海支社前行動及び春闘学習会」は無事終了しました。行動に結集された組合員の皆さん、大変ご苦労様でした。